

サマーレビュー 協議事項調書

1 部局名 (課名)	健康福祉部 (福祉総務課)																																				
2 協議事項 (案件名)	市社会福祉協議会への支出のあり方の見直しについて																																				
3 背景・現状 (現状把握 できる統計 数値など)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉推進のための中核的な役割を担っている市社会福祉協議会（以下、「市社協」という。）は、社会福祉法に規定された団体であり、本市が策定した地域福祉計画の実行役として、本市と一体となって事業を推進している。 ・市社協の管理運営経費や地区社会福祉協議会支援等の本来業務を実施しており、本市が1/2を補助している。 ・そのほか、本市では、市社協は、CSWの配置や元気はつらつ教室に関する業務委託、福祉交流センターやふれあい交流センターの指定管理、介護保険事業や障害福祉サービス事業を実施している。 ・市社協は、民間では担えない公益性の高い事業を実施しているため、収益を確保することが困難であることから、令和4年度から令和6年度まで三期連続の赤字決算となっている。また、令和6年度末における留保資金残高は425,125千円で令和4年度末から80,281千円(▲15.9%)減少している。 ・少子高齢化や人間関係の希薄化などが進み、社会的孤立を背景とした福祉課題を抱える世帯が増加しており、住民の支え合い活動などの地域福祉の重要度が増している。 																																				
4 検討経過・ 課題	<p>【検討経過】 2025年5～8月 市社協等との協議、制度案の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市社協の職員配置計画案の検討・策定、事業実施体制の検討 ・他政令市の状況調査 ・負担率等の検討、負担金額等の算定等 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉ニーズの増大に伴い、事業規模が大きくなるほど1/2の自主財源を賄うことが困難となる。 ・優秀な人材を確保するため、適正な給与水準を維持することが必要だが、財源の確保が困難である。 ・災害ボランティアセンターの円滑な設置運営に向けた体制整備が必要である。 ・高齢者等の増加にともない、権利擁護事業の充実強化が求められている。 <p>財務状況の推移（事業活動計算書）(単位：千円)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>R2決算</th> <th>R3決算</th> <th>R4決算</th> <th>R5決算</th> <th>R6決算</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>経常収益</td> <td>1,408,372</td> <td>1,394,187</td> <td>1,386,222</td> <td>1,267,369</td> <td>1,272,999</td> </tr> <tr> <td>経常費用</td> <td>1,353,019</td> <td>1,390,609</td> <td>1,451,715</td> <td>1,360,169</td> <td>1,398,712</td> </tr> <tr> <td>経常増減差額</td> <td>55,353</td> <td>3,578</td> <td>▲65,493</td> <td>▲92,800</td> <td>▲125,713</td> </tr> <tr> <td>当期活動増減差額</td> <td>57,030</td> <td>3,823</td> <td>▲71,454</td> <td>▲67,817</td> <td>▲128,635</td> </tr> <tr> <td>留保資金残高</td> <td>491,257</td> <td>544,723</td> <td>505,406</td> <td>492,149</td> <td>425,125</td> </tr> </tbody> </table>	項目	R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6決算	経常収益	1,408,372	1,394,187	1,386,222	1,267,369	1,272,999	経常費用	1,353,019	1,390,609	1,451,715	1,360,169	1,398,712	経常増減差額	55,353	3,578	▲65,493	▲92,800	▲125,713	当期活動増減差額	57,030	3,823	▲71,454	▲67,817	▲128,635	留保資金残高	491,257	544,723	505,406	492,149	425,125
項目	R2決算	R3決算	R4決算	R5決算	R6決算																																
経常収益	1,408,372	1,394,187	1,386,222	1,267,369	1,272,999																																
経常費用	1,353,019	1,390,609	1,451,715	1,360,169	1,398,712																																
経常増減差額	55,353	3,578	▲65,493	▲92,800	▲125,713																																
当期活動増減差額	57,030	3,823	▲71,454	▲67,817	▲128,635																																
留保資金残高	491,257	544,723	505,406	492,149	425,125																																

	<p>※令和2・3年度の黒字は、コロナ特例貸付事務に係る県社協からの受託金収入が一時的に増加したことによる。</p> <p>※当期活動増減差額は、経常増減差額に資産売却損益等を加味した最終損益。</p> <p>※令和6年度の赤字拡大は、主に国債の市場価格下落にともない基金の評価損が増加したことによる。</p>	
5-1 方向性の提案(目指すべき姿)	<ul style="list-style-type: none"> ・市社協の安定的かつ継続的な事業の実施を図るため、市社協が策定する職員配置計画及び事業実施計画を踏まえ、補助金を負担金化する等、あり方を検討する。 	
5-2 上記の方向性決定に向け議論する事項(妥当性、必要性、有効性など)	<ul style="list-style-type: none"> ・市社協との協議の進捗状況・検討結果等を踏まえ、関係部局と協議を実施しながら令和8年度当初予算要求に向けた制度設計を行う。 ・他政令市における社協への支援状況調査の実施及び結果分析により、具体的な支援方法(負担金化、交付金化、市負担率等、支援対象経費、メリット・デメリットなど)を検討する。 ・市社協が策定する職員配置計画の内容を精査し、妥当性について検証する。 	
6 結果	<input checked="" type="checkbox"/> 提案どおり進める <input type="checkbox"/> 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/> 再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/> その他	<p>具体的内容</p> <p>市社協への支援方法について検討すること。</p>
7 その他		